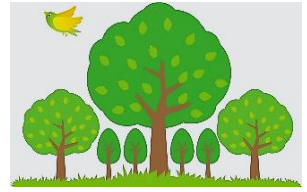


園だより

第 10 号

平成 29 年 12 月 20 日



その子らしさを支える

園長 馬見 雅子

2 学期が終業します。1 年の中で 1 番長く、様々な行事や友達との遊びや活動を通して様々な思いや経験をして多くの成長を実感できる学期です。朝、玄関で挨拶を交わす子ども達から様々な様子が伺えるのですが、最近は多くの子ども達から元気な笑顔や安定した気持ち、今日はこれをしよう！といった意欲や張り切る気持ちが見られ、成長が感じられます。

「A ちゃん、ずいぶん柔らかい表情になったね。きっと緊張が解けたんだね。」「B ちゃんお友達と楽しそうに遊んでいたね」「C 君あか組さんに譲ってあげていたよ」「D 君じっくり取り組んでいたね」「E 君自分で身支度できるようになったね」等、職員室では子どもたちの良さや成長に関するたくさんの声が聞かれます。走るのが速い・製作が上手・虫や恐竜のことをよく知ってる・遊びをリードする・ごっこ遊びでイメージ豊かに遊ぶ・言葉での表現が豊か…等、一人一人の好きなこと、得意なこと等の発見もありましたし、友達や けあばんけいのお年寄りへの優しい気持ち・持ち物の始末がきちんとできる、お弁当をしっかりと食べる、片付けを最後までしてくれる等の良さの発見もたくさんありました。このように、どの子にもその子の持つ素晴らしさが備わっています。

子どもは一人一人違います。まだ生まれて数年ですので、生活経験や成長のスピードの違いも大きいですし、個性もあります。わが子を見ているとつい心配事に目が向いてしまいがちですが、お子さんの持つ素晴らしさに目を向けて欲しいと思います。また、「落ち着きがない」は「やる気がある、活発」、「おとなしい」は「落ち着いて、慎重」といった具合に、一見短所に見えてしまうことも長所に繋がることが多いのです。まずはお子さんのありのままの姿や思いを受け止めてください。その上で、向き合い、働きかけ、折り合いをつけ、待つ、といった親子の営みがあるのだと思います。

園でも同様に安心して自分の思いを、自分らしさを出せるようになって欲しいと思います。子どもは安定した情緒の下で自己発揮し、その体験を通して成長していきます。園では上記のような一人一人の良さに目を向け、教師や友達に認められる経験を通して、自分の良さに気付き、自信をもって生活できるようになって欲しいと思っています。クラスの中で一人一人を生かし、育ち合えるように努力していきます。